

2020年度 第2四半期 決算説明会

2020年11月9日

ブラザー工業株式会社

財務担当執行役員 伊藤 敏宏

当資料に掲載されている情報のうち歴史的事実以外のものは、発表時点で入手可能な情報に基づく当社の経営陣の判断による将来の業績に関する見通しであり、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績は、経済動向、為替レート、市場需要、税制や諸制度等に関するさまざまなリスクや不確定要素により大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。

2020年度 第2四半期（7月-9月）実績

✓ 主にP&S事業、P&H事業が好調に推移し、大幅増益

- ・通信・プリンティング機器は、各国の経済活動再開による需要の緩やかな回復、在宅勤務向け製品への需要の継続に加え、一部チャネルでの消耗品買い増しなどの一時的要因もあり、大幅増益
- ・P&H事業は、家庭用ミシンでの手作り需要が喚起され、普及機を中心に販売増加し、大幅な増収増益
- ・ガーメントプリンターは需要拡大も、工業用ミシンの需要は低迷が継続
- ・産業機器は、IT向けはスポット案件効果、自動車・一般向けの需要は中国が回復基調
- ・N&C事業は、カラオケ店舗の時間短縮営業、業務用カラオケ機器の需要の落ち込みなどにより赤字が続く
- ・ドミノ事業は、需要の緩やかな回復に伴い、C&M機器製品本体、DPの消耗品が堅調に推移

2020年度 通期業績予想

✓ 年間を通じた販管費の減少、主に第2四半期における想定を上回る業績の好調さ、下期の前提見直しにより、通期連結業績予想を上方修正

- ・P&S事業は、主に第2四半期における想定を上回る業績の好調さ、下期における在宅勤務向け需要の継続によるSOHO製品本体の堅調な推移、および消耗品需要の緩やかな回復を見込み、上方修正
- ・P&H事業は、家庭用ミシンのコロナ特需による普及機を中心とした販売の好調が継続し、上方修正

© 2020 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

2

2020年度 第2四半期決算は、主にP&S事業、P&H事業が好調に推移し、前回公表時の想定を上回り、対前年で大幅な増益となりました。

【2020年度第2四半期実績】

・P&S事業

通信・プリンティング機器は、各国の経済活動再開による需要の緩やかな回復、在宅勤務向け製品への需要の継続に加え、一部チャネルでの消耗品買い増しなどの一時的要因もあり、大幅増益

・P&H事業

家庭用ミシンでの手作り需要が喚起され、普及機を中心に販売増加し、大幅な増収増益

・マシンリー事業（工業用ミシン）

ガーメントプリンターは需要拡大も、工業用ミシンの需要は低迷が継続

・マシンリー事業（産業機器）

IT向けはスポット案件効果、自動車・一般向けの需要は中国が回復基調

・N&C事業

カラオケ店舗の時間短縮営業、業務用カラオケ機器の需要の落ち込みなどにより、赤字が続く

・ドミノ事業

需要の緩やかな回復に伴い、C&M機器製品本体、DPの消耗品が堅調に推移

【2020年度の通期業績予想】

年間を通じた販管費の減少、主に第2四半期における想定を上回る業績の好調さ、下期の前提の見直しにより、通期連結業績予想を上方修正いたします。特に、P&S事業、P&H事業については、見通しを大きく引き上げています。

・P&S事業

主に第2四半期における業績の好調さ、下期における在宅勤務向け需要の継続によるSOHO製品本体の堅調な推移、および消耗品需要の緩やかな回復を見込み、上方修正

・P&H事業

家庭用ミシンのコロナ特需による普及機を中心とした販売の好調さが継続し、上方修正

主にP&S事業、P&H事業が好調に推移し、大幅増益となる

単位：億円

	19Q2	20Q2	増減	増減率 ()は為替影響 除く増減率
売上収益	1,593	1,569	-24	-1.5% (-0.8%)
事業セグメント利益	185	234	48	26.1%
事業セグメント利益率	11.6%	14.9%		
その他の収益・費用	-1	-1	0	
営業利益	184	233	48	26.1%
営業利益率	11.6%	14.8%		
税引前利益	183	232	48	26.4%
親会社の所有者に帰属する四半期利益	144	181	37	25.5%
USD	107.70	105.88		
EUR	119.83	123.71		

© 2020 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

3

2020年度 第2四半期は、当初の想定を大幅に上回り、増益の決算となりました。

売上収益は、前年比 24 億円減収となる **1,569**億円 となりました。

利益面は、

事業セグメント利益は、48億円増の **234**億円

営業利益は、48億円増の **233**億円

親会社四半期利益は、37億円増の **181**億円 と大幅な増益となりました。

利益率も約15%と高い水準となりました。

2020年度第2四半期 事業セグメント別実績

単位：億円

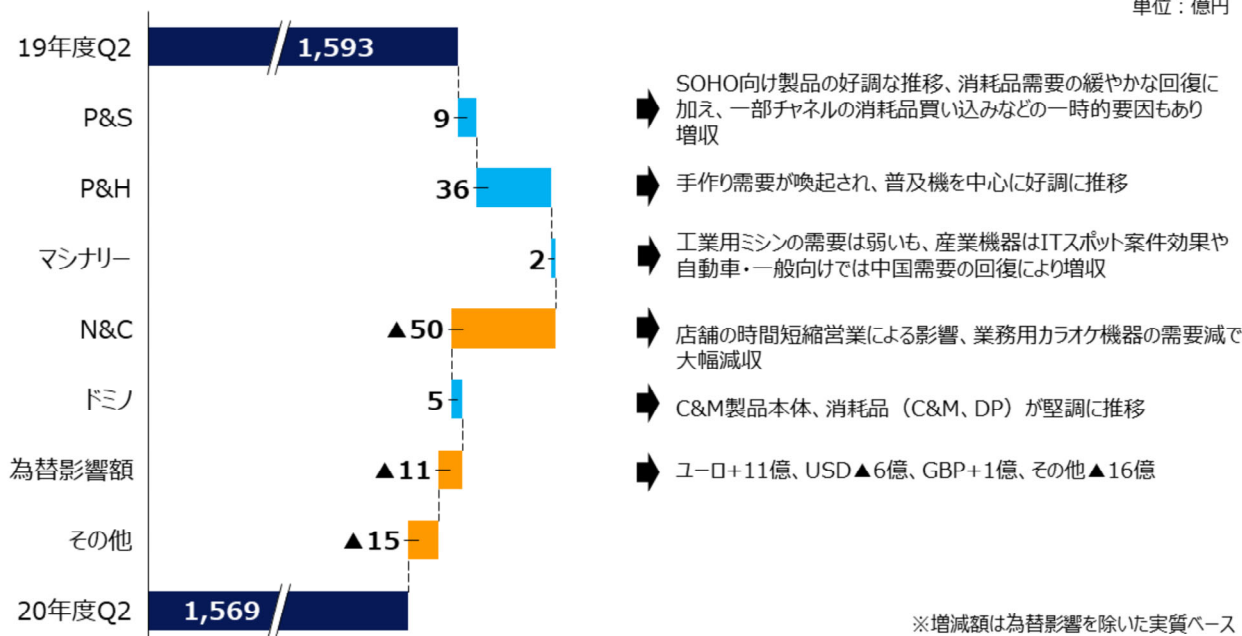
		19Q2	20Q2	増減
プリンティング&ソリューションズ	売上収益	951	950	0
	事業セグメント利益	148	189	41
	営業利益	145	186	42
パーソナル&ホーム	売上収益	110	144	34
	事業セグメント利益	8	27	19
	営業利益	8	26	18
マシナリー	売上収益	188	189	1
	事業セグメント利益	3	8	5
	営業利益	3	9	6
ネットワーク&コンテンツ	売上収益	139	88	-50
	事業セグメント利益	17	-4	-21
	営業利益	17	0	-16
ドミノ	売上収益	167	173	6
	事業セグメント利益	8	16	8
	営業利益	9	12	3
その他	売上収益	39	24	-15
	事業セグメント利益	1	-2	-3
	営業利益	3	-1	-4
合計	売上収益	1,593	1,569	-24
	事業セグメント利益	185	234	48
	営業利益	184	233	48

※セグメント間取引消去額は含めておりません。

事業セグメントごとの業績一覧です。

N&C事業の大幅減収を、P&H事業、P&S事業が補うも、全体として減収となる

単位：億円



20年度 第2四半期の売上収益の増減要因です。
ご覧のとおりP&Hが大きくプラス、ネットワークが大きくマイナスとなっているのがポイントです。

・P&S

SOHO向け製品の好調な推移が継続したこと、消耗品需要の緩やかな回復に加え、一部のチャネルでの在庫確保のための買い込みなどの一時的要因もあり、増収となりました。

・P&H

家庭用マシンでの手作り需要が喚起され、普及機を中心に好調に推移し、大幅増収となりました。

・マシナリー

工業用ミシンの需要の弱さは継続も、産業機器においてのIT向けスポット案件の効果や自動車・一般機械向けの中国需要の回復により増収となりました。

・N&C

店舗の時間短縮営業による影響、業務用カラオケの需要減により、大幅減収となりました。

・ドミノ

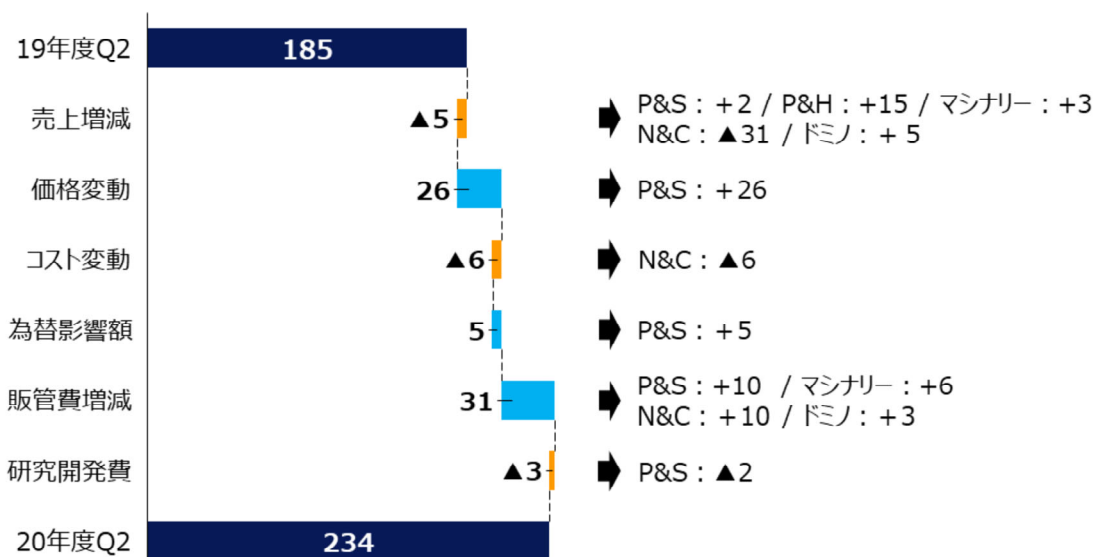
C&M製品本体、消耗品（C&M、DP）が堅調に推移し、増収となりました。

為替のマイナス影響が全社で11億円あるものの、全体としては24億円減収の**1,569**億円、ほぼ前年並みの水準となりました。

2020年度第2四半期 事業セグメント利益の増減要因

主にP&H事業における売上増、P&S事業でのミックス改善に加え、
販管費の抑制効果も加わり、大幅増益

単位：億円



© 2020 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

6

事業セグメント利益の増減要因です。主な要素についてコメントします。

・売上増減

N&Cの大幅減収を、好調なP&Hが補う形で、マイナス幅を縮小しています。

・価格変動

主にP&S事業によるものです。供給制約のため、プロモーション等が実施できなかったことや需要が強い中で、高価格帯の機種も販売が堅調であったことから、結果として平均単価があがりました。

・為替影響

ほぼP&S事業によるものです。Q2では主にユーロ高による影響が利益にポジティブに効きました。

・販管費増減

全ての事業において販管費は減少しました。N&C事業では積極的に経費削減をすすめたことに加え、P&S事業では、各国の経済活動は段階的に再開も、コロナ前ほどの販管費の水準にはいたりませんでした。

これらにより、2020年度 第2四半期の事業セグメント利益は、前期比プラス48億の**234**億となりました。

Q2は好調に推移も、Q1の落ち込みを補いきれず、減収減益

単位：億円

	19Q2 累計	20Q2 累計	増減	増減率 ()は為替影響 除く増減率
売上収益	3,185	2,901	-284	-8.9% (-6.9%)
事業セグメント利益	362	320	-42	-11.6%
事業セグメント利益率	11.4%	11.0%		
その他の収益・費用	4	5	2	
営業利益	365	325	-40	-11.0%
営業利益率	11.5%	11.2%		
税引前利益	364	326	-37	-10.2%
親会社の所有者に帰属する四半期利益	273	247	-26	-9.5%
USD	109.00	106.68		
EUR	121.43	121.36		

© 2020 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

7

第2四半期決算は好調に推移したものの、新型コロナウイルス感染症拡大による第1四半期の落ち込みを補いきれず、2020年度 第2四半期累計期間は、減収減益の決算となりました。

売上収益は、前年比 284 億円減収となる **2,901**億円 となりました。

利益面は、

事業セグメント利益は、42億円減の **320**億円

営業利益は、40億円減の **325**億円

親会社四半期利益は、26億円減の **247**億円 と減益となりました。

2020年度上期 事業セグメント別実績

単位：億円

		19Q2累計	20Q2累計	増減
プリンティング&ソリューションズ	売上収益	1,932	1,779	-153
	事業セグメント利益	312	283	-30
	営業利益	311	287	-24
パーソナル&ホーム	売上収益	199	252	54
	事業セグメント利益	9	41	32
	営業利益	9	40	31
マシナリー	売上収益	393	340	-53
	事業セグメント利益	9	7	-2
	営業利益	9	5	-4
ネットワーク&コンテンツ	売上収益	252	150	-102
	事業セグメント利益	11	-27	-38
	営業利益	11	-22	-34
ドミノ	売上収益	335	327	-9
	事業セグメント利益	19	20	0
	営業利益	20	14	-5
その他	売上収益	73	52	-21
	事業セグメント利益	3	-2	-6
	営業利益	7	2	-6
合計	売上収益	3,185	2,901	-284
	事業セグメント利益	362	320	-42
	営業利益	365	325	-40

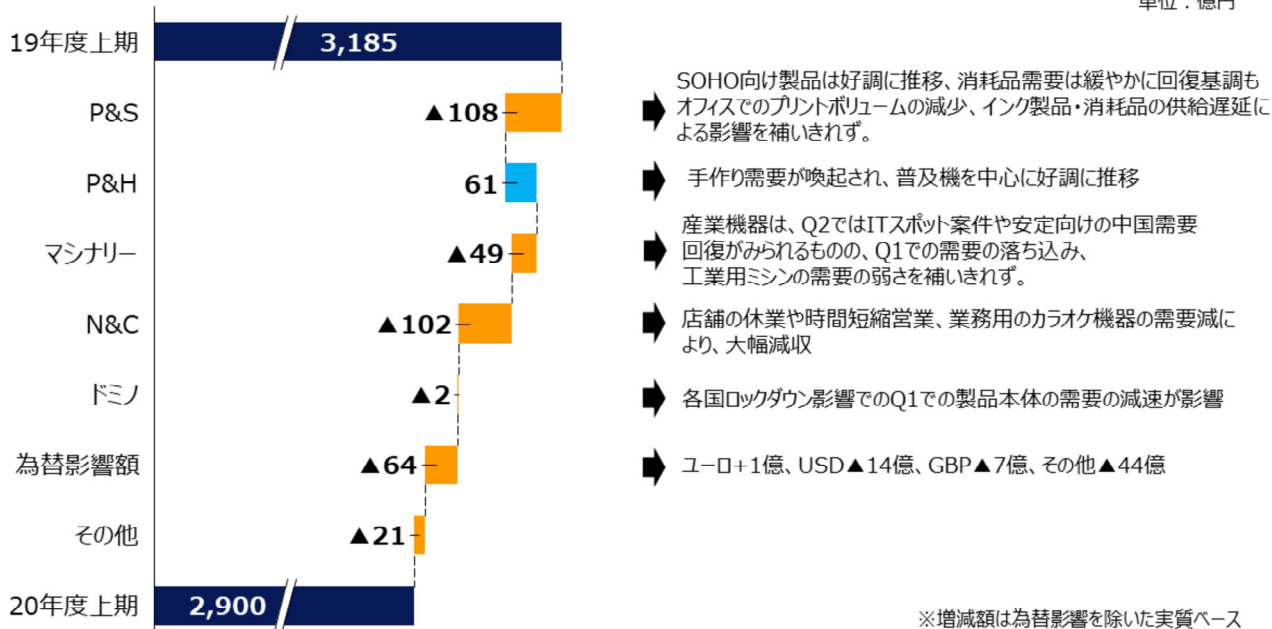
※セグメント間取引消去額は含めておりません。

事業セグメントごとの業績一覧です。

2020年度上期 売上収益の増減要因

P&Hは好調も、N&C、P&Sの落ち込み、為替のマイナス影響を吸収できず減収

単位：億円



2020年度 上期の増減要因です。

・P&S

SOHO向け製品は好調に推移し、消耗品需要も緩やかな回復基調も、オフィスでのプリントボリュームの減少、インク製品・消耗品の供給遅延による影響を補いきれずに減収

・P&H

家庭用マシンでの手作り需要が喚起され、普及機を中心に好調に推移し、大幅な増収

・マシナリー

産業機器はQ2でのITスポット案件や安定向けの中国需要回復がみられるものの、Q1での需要の落ち込み、工業用マシン需要の弱さを補いきれず減収

・N&C

店舗の休業や時間短縮営業、業務用カラオケの需要減により大幅減収

・ドミノ

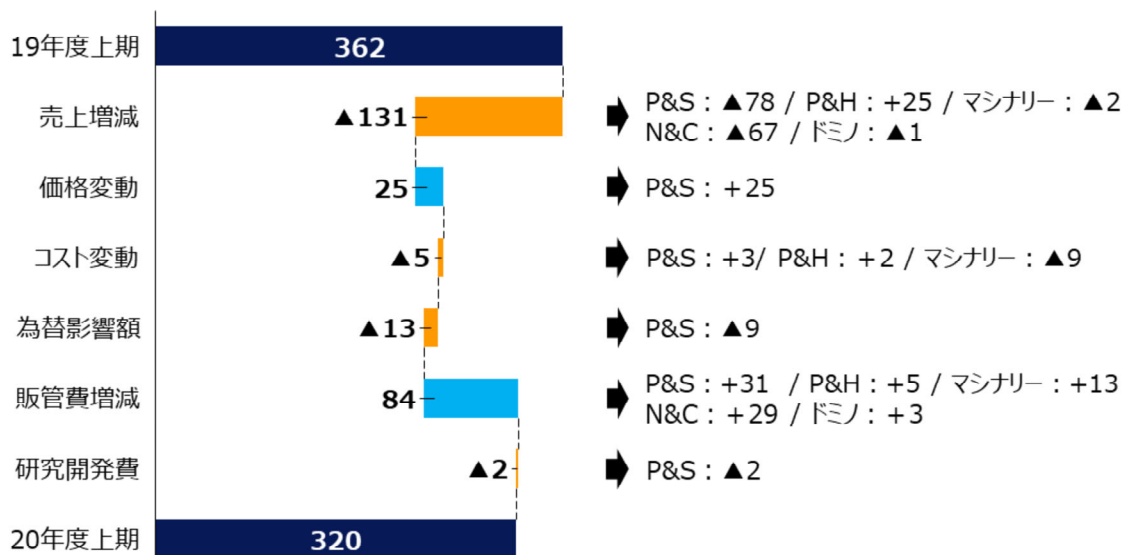
各国ロックダウンの影響によるQ1での製品本体の需要の減速が影響し、減収

加えて、為替のマイナス影響が全社で64億円あり、全体で284億円 減収の **2,901**億円となりました。

2020年度上期 事業セグメント利益の増減要因

コロナ影響による営業活動の制限などによる販管費の抑制効果はあるものの、
減収による影響を補いきれず、減益となる

単位：億円



事業セグメント利益の増減要因です。

ご覧の通り、P&S事業、N&C事業ともに販管費の抑制効果はあったものの、それぞれの大幅な減収による影響を補いきれず、減益となりました。

これらの結果、
2020年度 上期の事業セグメント利益は、前年比マイナス42億円の**320**億円となりました。

年間を通じた販管費の減少、主に第2四半期の業績の堅調さ、下期の見通しの改善により、通期連結業績予想を上方修正

単位：億円

	前回予想	20年度 今回予想	増減	増減率	19年度 実績	増減	増減率 ()は為替影響 除く増減率
売上収益	5,600	6,000	400	7.1%	6,373	-373	-5.8% (-3.9%)
事業セグメント利益	310	550	240	77.4%	669	-119	-17.8%
事業セグメント利益率	5.5%	9.2%			10.5%		
その他の収益・費用	0	-15	-15		4	-19	
営業利益	310	535	225	72.6%	673	-138	-20.5%
営業利益率	5.5%	8.9%			10.6%		
税引前利益	310	530	220	71.0%	670	-140	-20.9%
親会社の所有者に帰属する当期利益	250	400	150	60.0%	496	-96	-19.3%
USD	106.67	106.35			109.10		
EUR	119.76	121.05			121.14		

通期の業績予想は、年間を通じた販管費の減少に加え、第2四半期での主にP&S事業、P&H事業における想定を上回る業績の好調さに加え、下期の売上、利益も前回予想を上回る見通しとなったことから、8月に公表した通期の連結業績予想を修正します。

2020年度通期の売上収益は、前回予想比 400 億円増収となる **6,000**億円

利益は、
 事業セグメント利益は、240億円増の **550**億円
 営業利益は、225億円増の **535**億円
 親会社当期利益は、150億円増の **400**億円

年間を通じて前年比では減収減益となることを見込んでおりますが、前回予想との比較では、大幅な上方修正となります。

2020年度通期 事業セグメント別予想



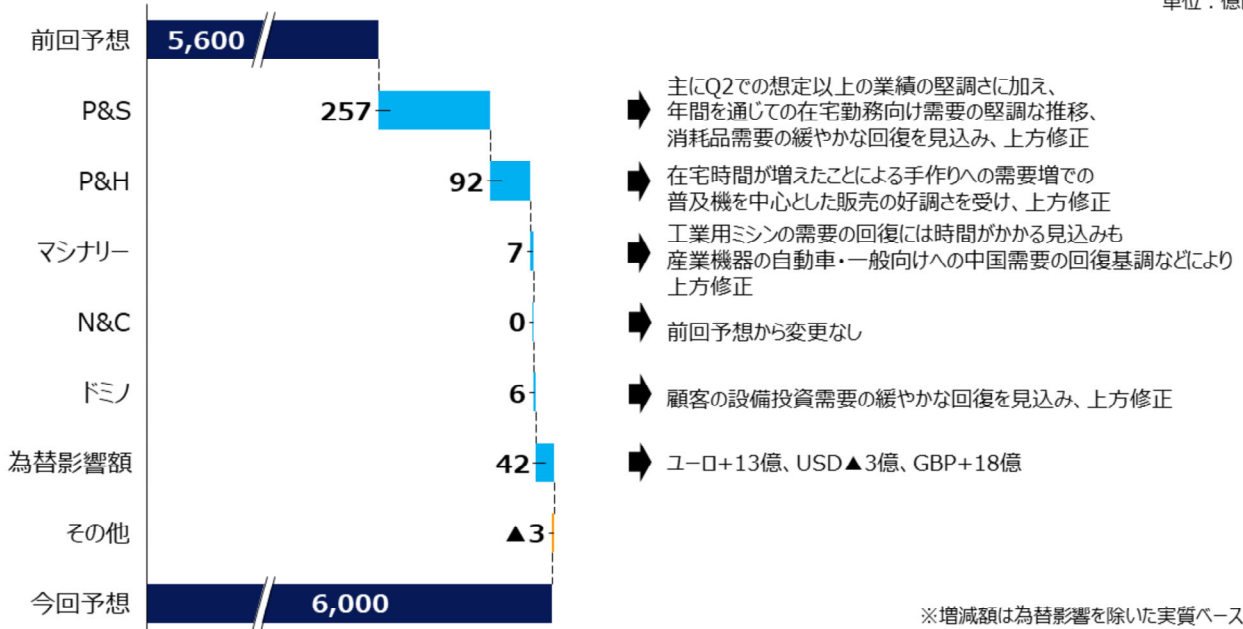
単位：億円

		前回予想	20年度予想	増減	19年度実績	20年度予想	増減
プリンティング&ソリューションズ	売上収益	3,349	3,628	279	3,907	3,628	-279
	事業セグメント利益	300	500	200	571	500	-71
	営業利益	312	512	200	571	512	-59
パーソナル&ホーム	売上収益	406	500	94	409	500	91
	事業セグメント利益	25	69	44	31	69	38
	営業利益	25	69	44	32	69	37
マシナリー	売上収益	715	722	7	748	722	-26
	事業セグメント利益	1	4	3	7	4	-3
	営業利益	0	-6	-6	6	-6	-12
ネットワーク&コンテンツ	売上収益	335	335	0	491	335	-156
	事業セグメント利益	-47	-48	-1	21	-48	-69
	営業利益	-45	-45	0	19	-45	-64
ドミノ	売上収益	636	659	23	675	659	-16
	事業セグメント利益	24	37	13	38	37	-1
	営業利益	22	33	11	39	33	-6
その他	売上収益	159	156	-3	142	156	14
	事業セグメント利益	7	-12	-19	4	-12	-16
	営業利益	-4	-28	-24	9	-28	-37
合計	売上収益	5,600	6,000	400	6,373	6,000	-373
	事業セグメント利益	310	550	240	669	550	-119
	営業利益	310	535	225	673	535	-138

※セグメント間取引消去額は含めておりません。

N&C事業を除いた事業全てで、売上収益を上方修正

単位：億円



前回予想からの、20年度年間の売上収益の 前回予想からの修正要因です。

・P&S

主にQ2での想定以上の業績の堅調さに加え、年間を通じての在宅勤務向け需要の堅調な推移、消耗品需要の緩やかな回復を見込み、上方修正

・P&H

在宅時間が増えたことによる手作りへの需要が増加し、普及機を中心とした販売の好調さを受け、上方修正

・マシンリー

工業用マシンの需要の回復には時間がかかる見込みも、産業機器の自動車・一般向けへの中国需要の回復基調などにより上方修正

・N&C

前回予想から変更なし

・ドミノ

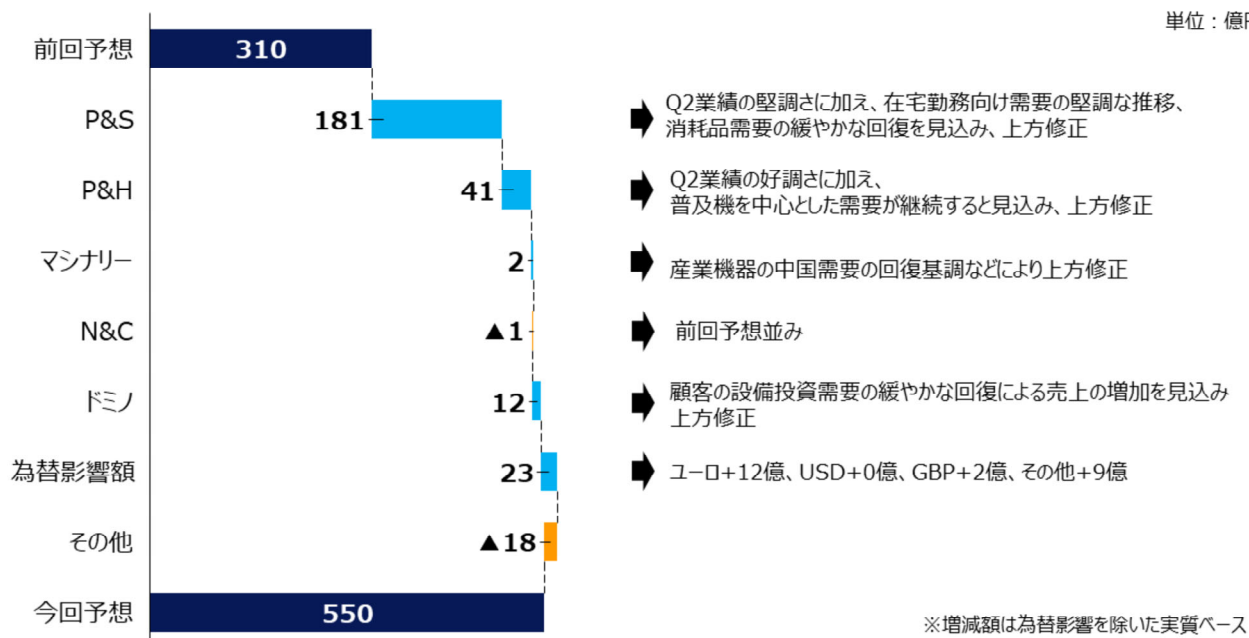
顧客の設備投資需要の緩やかな回復を見込み、上方修正

加えて、為替のポジティブ影響が全社で42億円あり、全体で400億円増収の**6,000**億円を見込んでいます。

2020年度通期 事業セグメント利益予想の修正要因

P&S事業、P&H事業の見通しの引き上げに伴い、利益も上方修正

単位：億円



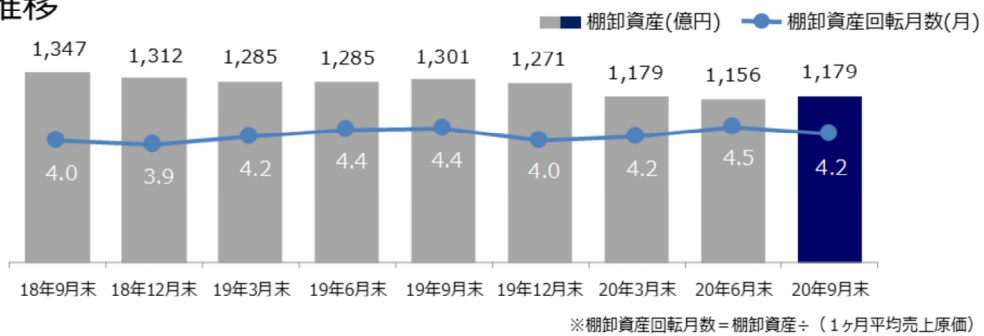
事業セグメント利益の増減要因です。

ご覧の通り、P&S事業、P&H事業の見通しの引き上げに伴い、事業セグメント利益を上方修正します。

これらの結果、2020年度 通期の事業セグメント利益は、
前回予想から 240億円増益の**550**億円を見込んでいます。

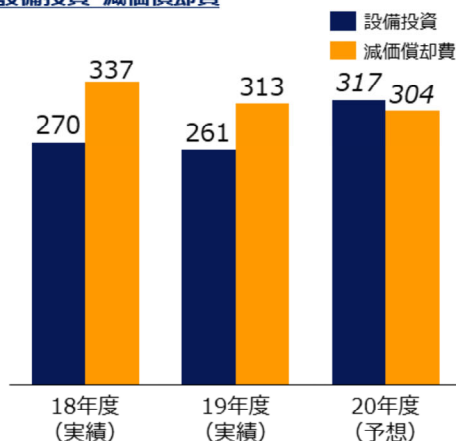
	19年度末	20年度Q2	増減	
流動資産	4,088	4,414	327	ネット・キャッシュ 19年度末 : +614億円 20年度Q2末 : +900億円
現預金	1,684	2,060	376	
棚卸資産	1,179	1,179	0	
非流動資産	3,227	3,263	36	株主資本比率 19年度末 : 58.6% 20年度Q2末 : 59.0%
負債合計	2,863	2,978	115	
有利子負債	1,070	1,160	90	
株主資本	4,285	4,532	247	
総資産	7,315	7,677	362	

棚卸資産推移

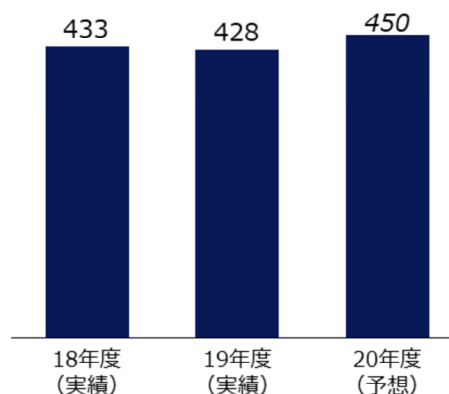


財政状態については、特に大きな変化はありません。

設備投資・減価償却費



研究開発費



事業別設備投資内訳

	18年度	19年度	20年度
P&S	95	109	155
P&H	9	5	10
マシナリー	40	24	37
N&C	52	49	21
ドミノ	31	21	22
その他	44	52	72
計	270	261	317

事業別研究開発費内訳

	18年度	19年度	20年度
P&S	290	277	291
P&H	22	22	23
マシナリー	50	54	57
N&C	5	9	10
ドミノ	38	38	40
その他	27	29	29
計	433	428	450

・設備投資

前回予想からの変化はありません。

20年度は、P&S事業で新製品投入のために予定されている金型投資や、2020年10月にオープンした愛知県刈谷市（刈谷工場）の産業機器のショールームの建設費用等で、設備投資の水準はあがる見込みですが、今後の成長に向けた必要な投資であると認識しております。

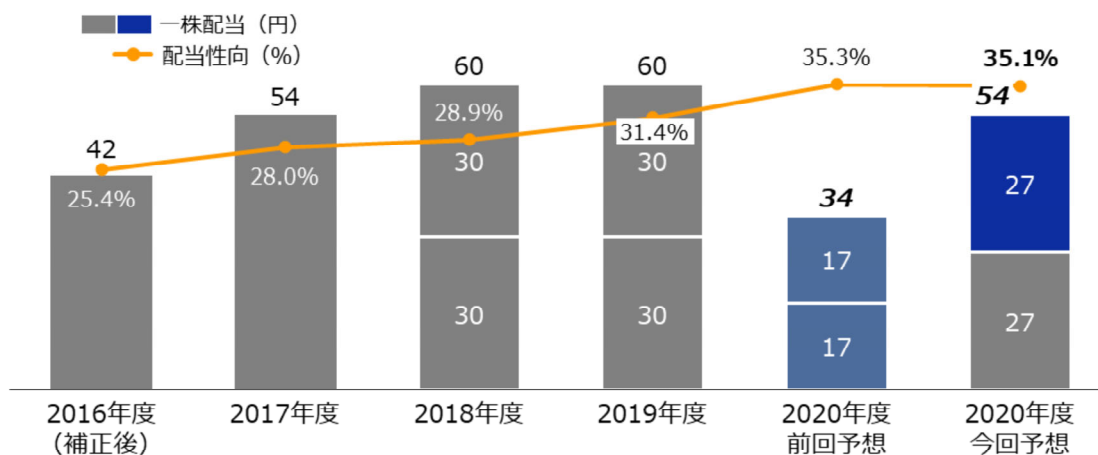
・開発費

前回予想からの変化はありません。将来に向けた必要な投資は減らすことなく、すすめていきます。

通期連結業績予想の見直しに伴い、配当金予想を引き上げ

- ◆第2四半期末の配当金 1株当たり**27**円（前回予想 17円）
- ◆期末配当予想 1株当たり**27**円（前回予想 17円）

2021年3月期年間配当金：1株当たり**54**円（前回予想 34円）
 連結配当性向は**35%**となる見込み



通期連結業績予想の見直しに基づき、

当年度の第2四半期末配当を、前回予想17円から1株当たり**27**円へ
 期末配当予想につきましても、前回予想17円から1株当たり**27**円といたします。

これにより、2021年3月期の1株当たり年間配当金は、
 前回予想34円から**54**円となり、連結配当性向は**35%**となる見込みです。

セグメント業績概要

プリンティング&ソリューションズ事業 地域別売上収益・事業セグメント利益・営業利益

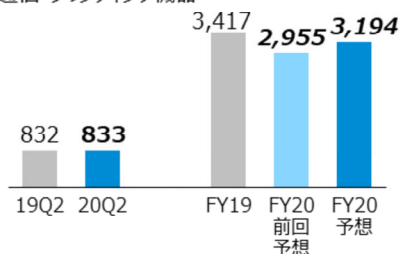
brother
at your side

単位：億円

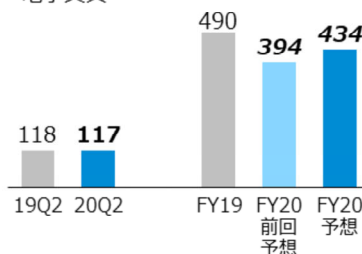
	19Q2	20Q2	増減率	為替影響 除く増減率	FY19	FY20 前回予想	FY20	対前年 増減率	為替影響 除く増減率
売上収益	951	950	0.0%	0.9%	3,907	3,349	3,628	-7.1%	-4.8%
通信・プリンティング機器	832	833	0.1%	1.1%	3,417	2,955	3,194	-6.5%	-4.1%
米州	307	298	-3.0%	1.0%	1,256	1,079	1,175	-6.5%	-2.0%
欧州	262	272	4.1%	1.8%	1,133	971	1,041	-8.1%	-7.1%
アジア他	150	163	8.9%	9.9%	591	519	585	-1.1%	1.5%
日本	114	100	-12.1%	-12.1%	437	387	394	-9.9%	-9.9%
電子文具	118	117	-1.2%	-0.3%	490	394	434	-11.4%	-9.3%
米州	56	50	-10.9%	-7.6%	226	169	187	-17.3%	-13.9%
欧州	34	36	6.9%	4.0%	144	118	131	-9.0%	-8.7%
アジア他	19	17	-7.5%	-7.0%	72	63	66	-8.5%	-6.0%
日本	9	13	40.4%	40.4%	47	44	50	5.1%	5.7%
事業セグメント利益	148	189	27.9%	-	571	300	500	-12.4%	-
営業利益	145	186	28.7%	-	571	312	512	-10.3%	-

<売上収益>

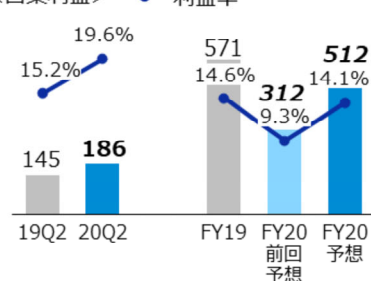
通信・プリンティング機器



電子文具



<営業利益> ● 利益率



© 2020 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

19

P&S事業の第2四半期の売上収益は**950**億円。ほぼ前年並みとなりました。

・ 通信・プリンティング機器

売上収益は**833**億円。ほぼ前年並みとなりました。

レーザー複合機・プリンター：

在宅勤務や在宅学習の機会が増加したことにより、SOHO向けの製品への需要が第2四半期においても堅調に続いたこと、SMB向け製品は、一部のSOHO向け製品の在庫不足を補完して、想定を若干上回りました。消耗品については、欧州の一部チャネルでの在庫確保のための消耗品の買い増し等の一時的要因などもあり、想定を上回って推移しました。

インクジェット複合機：

在宅勤務や在宅学習の機会の増加により需要は拡大しましたが、インクジェット製品の供給遅延の影響が続き、販売数量は大幅に減少しました。なお、インク消耗品は空輸対応の継続により、供給遅延は回復しつつあります。

・ 電子文具

売上収益は**117**億円で、ほぼ前年並みとなりました。日本はラベリング、ソリューションともに好調に推移しました。

その他の地域においても、各国のオフィス閉鎖などにより、第1四半期で落ち込んだ需要は第2四半期で徐々に回復しつつあります。

事業セグメント利益は、**189**億円。対前年でプラス27.9%の増益となりました。

販管費の減少、およびSOHO向け製品本体の需要が第2四半期でも継続したことに加え、一時的要因があるものの想定を上回る消耗品の堅調さなどによるものです。

通期見通し：

在宅勤務などへの新しい働き方が定着し、プリンター・複合機の製品本体の需要の強さは、年間を通じて堅調に推移し、消耗品についても需要のゆるやかな回復を見込んでいます。ラベリング・ソリューション分野についても同様に、需要のゆるやかな回復を見込んでおり、事業全体で、前回予想から上方修正いたします。

プリンティング&ソリューションズ事業 主要製品別売上伸び率・構成比



	18Q1	18Q2	18Q3	18Q4	19Q1	19Q2	19Q3	19Q4	20Q1	20Q2	20Q3	20Q4	18通期	19通期	20通期 予想
LBP															
売上伸び率（円ベース/前年比）															
本体	1%	-3%	-5%	-17%	-9%	-8%	-7%	-2%	6%	19%	-	-	-6%	-7%	9%
消耗品	1%	1%	-1%	-4%	2%	-6%	-2%	-3%	-18%	1%	-	-	-1%	-2%	-9%
売上伸び率（現地通貨ベース/前年比）															
本体	2%	0%	-1%	-12%	-6%	-4%	-3%	2%	11%	22%	-	-	-2%	-3%	13%
消耗品	1%	3%	2%	-1%	4%	-1%	3%	0%	-15%	2%	-	-	1%	1%	-7%
IJP															
売上伸び率（円ベース/前年比）															
本体	-6%	-6%	2%	-6%	-2%	8%	-7%	-3%	-37%	-49%	-	-	-4%	-1%	-28%
消耗品	1%	-1%	-3%	-5%	1%	-2%	-8%	4%	-23%	-1%	-	-	-2%	-2%	-13%
売上伸び率（現地通貨ベース/前年比）															
本体	-3%	-2%	6%	-1%	1%	13%	-4%	0%	-33%	-48%	-	-	-1%	2%	-26%
消耗品	1%	1%	0%	-2%	3%	3%	-5%	7%	-20%	-1%	-	-	0%	2%	-12%
消耗品比率															
	58%	58%	57%	61%	60%	58%	57%	59%	55%	57%	-	-	58%	58%	55%
販売台数伸び率（実績のみ/前年比）															
LBP	-1%	-8%	-7%	-16%	-13%	-4%	-2%	3%	12%	10%	-	-	-8%	-5%	-
IJP	-1%	-2%	-1%	-4%	0%	13%	1%	7%	-39%	-57%	-	-	-2%	5%	-

© 2020 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

20

主要製品の売上伸び率・構成比です。

レーザー（LBP）の売上伸び率（現地通貨ベース）は、本体がプラス22%、消耗品はプラス2%となりました。
一方で、インクジェット（IJP）の売上伸び率（現地通貨ベース）は、供給遅延の影響により、本体がマイナス48%、消耗品はマイナス1%となりました。

・消耗品比率：

欧州での一部チャネルにおける在庫確保のための消耗品の買い増しなどの一時的要因もありますが、消耗品の需要が緩やかに回復したこともあり、消耗品の比率は第1四半期に比較して、若干あがりました。

・販売台数：

LBPでは、SOHO向け製品の販売が好調に推移し、プラス10%。
IJPでは需要は強いのですが、供給遅延による影響が継続し、マイナス57%となりました。

通期見通し：

レーザー（LBP）の製品本体では、SOHO向けは在宅勤務、在宅学習向けの製品本体への需要が続く見通しです。
SMB向け製品についても、緩やかな回復が見込まれます。
消耗品については、年間を通じ、需要は回復基調であるものの、オフィスでのプリントボリュームの減少により、SOHO・SMBともにコロナ前の水準までにはもどらないと見えています。

インクジェット（IJP）については、インク消耗品の供給不足は解消しつつあるものの、製品本体については供給遅延の影響が継続し、年間を通じて売上は低い水準で推移するものと想定しております。

第2四半期実績は、
各国の経済活動の再開や一時的要因もあり、想定を上回り堅調に推移

第1四半期
(4-6月)
実績

【Q1実績】 各国のロックダウン、経済活動制限により売上・利益とも落ち込んだ

- ・SOHO向け: 本体販売は堅調（主に在宅勤務の需要増）も、プリントボリュームは減少
- ・SMB向け: 本体販売、消耗品ともに落ち込む（オフィス向け製品需要減、オフィスでのプリントボリュームの減少）
- ・平均プリントボリューム（コロナ前比）: 4月初旬 SOHO70%、SMB60%→7月末時点 SOHO85%、SMB 80%程度
- ・インク製品・消耗品: 供給遅延が発生（工場操業の一時停止）

前回
公表時
(8/4)
見立て

【Q2見立て（前回公表時）】 厳しい状況が継続するとの想定であった

- ・SOHO向け: 在宅需要は、Q2以降一巡して落ち着く
- ・インク製品・消耗品: 工場稼働はコロナ前の水準までもどるも、インク製品・消耗品の供給不足による販売機会の喪失
- ・平均プリントボリューム: 需要はゆるやかに回復も、オフィス向けのプリンタ・複合機のプリントボリュームは減少したまま
- ・経費: 営業活動再開による費用の増加により、Q1に比較して、Q2の利益は圧迫される
- ・新興国: 中国をのぞく新興国の回復には時間がかかる（脆弱なインフラ、Eコマース基盤の不足、感染の拡大）



第2
四半期
実績

【Q2実績】 想定を上回り、堅調に推移（※一部に一時的要因を含む）

- 感染防止対策をしながらの各国での経済活動の再開により、本体、消耗品の販売はQ1公表時での想定よりも回復
- ・SOHO向け: 在宅需要の好調さがQ2でも継続、新興国でもSOHO向けレーザー製品の需要が回復、インク本体の供給遅延は継続。
 - ・SMB向け: 経済活動の回復に加え、一部SOHO製品の在庫不足を補完して想定を若干上回る
 - ・消耗品: 消耗品は想定より堅調に推移し、インク消耗品も、優先生産と空輸継続で供給遅延が回復しつつある。欧州の一部チャネルの在庫確保のための消耗品買い増し(一時的要因)と本体を購入する際に消耗品同時購入の傾向。
 - ・平均プリントボリューム（コロナ前比）: 9月末時点でSOHO 90%、SMB 85%程度
 - ・経費: Q2においても費用は増加しなかった（固定費はQ1並み）

P&S事業の実績、業績見通しについては、こちらのスライドのとおりです。

需要の緩やかな回復、在宅需要の継続を見込み、下期の見立てを変更

下期
見通し

【下期】在宅需要が堅調に継続する見通しへと変更

- ・SOHO向け：主にSOHO向け製品に対する在宅需要は、下期も堅調に続く見立てを変更
- ・SMB向け：在宅勤務などへの働き方のシフトの影響が続き、第1四半期での落ち込みの挽回は厳しいものの、下期は第2四半期の回復レベルが続く
- ・インク製品：インク消耗品の供給不足はほぼ解消しているが、インク製品本体の供給不足は、年間を通じて影響が続く
- ・平均プリントボリューム：プリントボリュームはコロナ前までにはもどらない（消耗品売上の通期見立ては前年度の9割程度）
- ・新興国：中国は堅調に推移、その他の新興国については、SOHO向けレーザー製品需要の高まりで回復基調にはあるものの、インク本体の供給課題が影響し年間を通じて厳しい状況

（※欧州、その他地域における感染の再拡大による影響、工場の稼働停止については見通しに盛り込まず）

P&S事業の実績、業績見通しについては、こちらのスライドのとおりです。

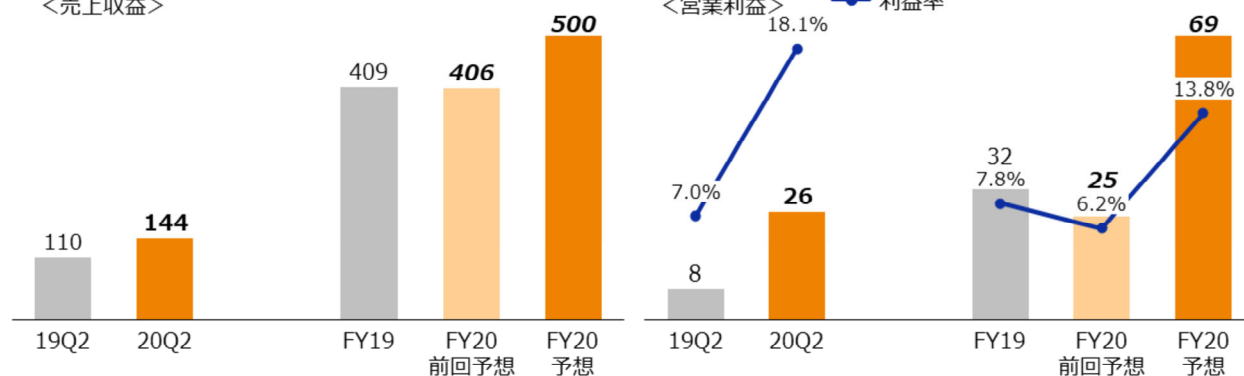
パーソナル&ホーム事業 地域別売上収益・事業セグメント利益・営業利益

brother
at your side

単位：億円

	19Q2	20Q2	増減率	為替影響 除く増減率	FY19	FY20 前回予想	FY20	対前年 増減率	為替影響 除く増減率
売上収益	110	144	30.8%	32.7%	409	406	500	22.4%	25.9%
米州	69	74	7.0%	11.9%	223	217	261	16.9%	23.0%
欧州	22	42	90.1%	83.6%	108	110	138	27.7%	27.4%
アジア他	11	14	20.8%	22.5%	46	46	55	18.0%	20.8%
日本	8	14	86.9%	86.9%	32	33	47	48.8%	48.8%
事業セグメント利益	8	27	242.8%	-	31	25	69	120.5%	-
営業利益	8	26	240.3%	-	32	25	69	117.4%	-

<売上収益>



© 2020 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

23

P&H事業の第2四半期の売上収益は**144**億円、
現地通貨ベースの伸び率では、プラス32.7%の大幅な増収となりました。

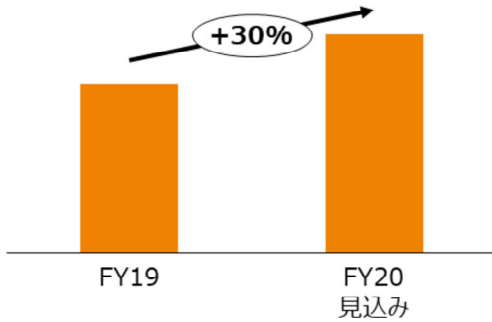
家庭用マシンは、コロナ影響を受けた各国でのロックダウンや、在宅勤務の機会の拡大により、
自宅で過ごす時間が増えたことで、手作り需要が喚起され、普及機を中心にすべての地域において販売は好調に推移しました。

事業セグメント利益については、売上増による効果に加え、販管費の減少により、
前年同期の8億円に対して、19億円増の**27**億円となり、大幅な増益となりました。

通期については、家庭用マシンへの需要が引き続き好調に推移すると見込み、前回予想から上方修正し、対前年で、増収増益
となる見通しです。

“巣ごもり需要”で家庭用ミシンへの注目が高まる
各地でオンラインでの新製品発表会などを実施

家庭用ミシンの販売台数（グローバル）



オンラインイベントの開催



オンラインイベント（USA）



バーチャルショールーム（欧州）

事業環境

欧米	普及価格帯を中心に販売好調。副業目的の需要も拡大。下期も強い需要が持続する見込み
アジア	AP地域は販売好調。下期も強い需要が持続する見込み。中国での需要は一巡。
日本	巣ごもり・マスク制作を受け、強い需要が続く。下期も強い需要が持続する見込み。

© 2020 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

家庭用ミシンの販売台数は普及機を中心に伸長し、対前年で3割増しとなる見込みです。

コロナ影響で、取引先を招待してのイベント等は自粛することとなりましたが、オンラインイベントの開催や、Web上にバーチャルショールームを開設するなど、新しい形での営業活動にも積極的に取り組んでいます。

マシナリー事業 売上収益・事業セグメント利益・営業利益



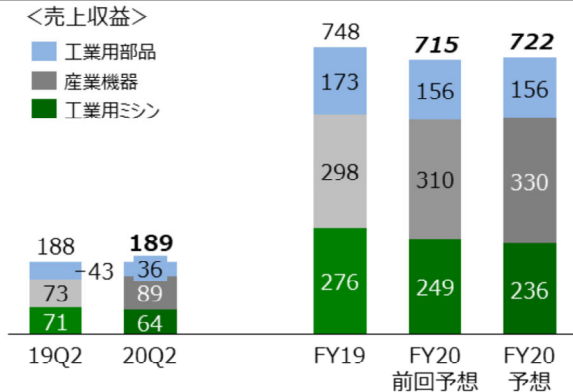
単位：億円

	19Q2	20Q2	増減率	為替影響 除く増減率	FY19	FY20 前回予想	FY20	対前年 増減率	為替影響 除く増減率
売上収益	188	189	0.8%	1.1%	748	715	722	-3.5%	-2.6%
工業用マシン	71	64	-10.4%	-10.0%	276	249	236	-14.8%	-13.5%
産業機器	73	89	22.3%	22.5%	298	310	330	10.8%	11.5%
工業用部品	43	36	-17.2%	-16.9%	173	156	156	-10.1%	-9.6%

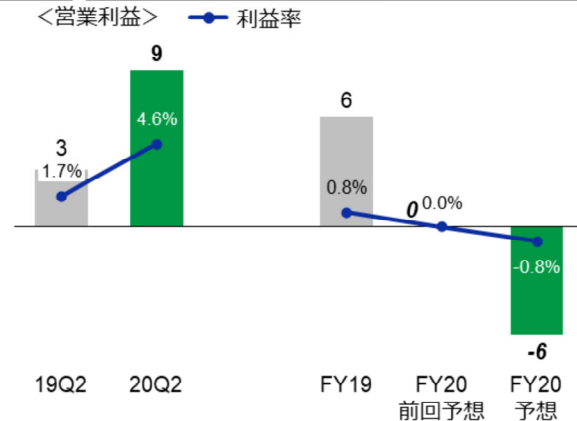
事業セグメント利益	3	8	164.8%	-	7	1	4	-42.4%	-
営業利益	3	9	173.2%	-	6	0	-6	-	-

<売上収益>

■ 工業用部品
■ 産業機器
■ 工業用マシン



<営業利益> ● 利益率



© 2020 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

25

マシナリー事業は、第2四半期では売上、利益とも堅調に推移しました。
第2四半期の売上収益は、マシナリー事業全体で**189**億円。ほぼ前年並みとなりました。
売上収益の内訳は、
工業用マシンが**64**億円、産業機器が**89**億円、工業用部品が**36**億円となりました。

・工業用マシン

工業用マシンセグメントでは、ガーメントプリンターおよび工業用マシンの2つの製品カテゴリーを扱っています。
ガーメントプリンターについては、ECサイトを利用するお客様からの引き合いが強く、需要拡大が続いたものの、
工業用マシンについては、需要の落ち込みに加え、感染拡大の影響により、アジア市場での営業活動に制限が続いていること
などにより、事業全体で減収となりました。

・産業機器

IT向けでは、在宅勤務の増加を受けたノートPCなどのスポット案件の効果、自動車・一般機械関連向けでは
主に中国の需要回復などにより、増収となりました。

・工業用部品

国内向けは製造業全般の製造活動鈍化や設備投資抑制の動きが高まったこと、
海外向けは主にアジア向けの需要が低迷したことにより、減収となりました。

利益は、産業機器の増収による効果に加え、販管費の削減に努めたことにより、
事業全体で、事業セグメント利益が**8**億円、営業利益が**9**億円と増益となりました。

通期については、

工業用マシン事業の回復には時間がかかる見込みであるものの、産業機器では、IT向けの受注の獲得、
自動車・一般向けでは中国の好調さが継続することを見込み、事業全体として前回予想から上方修正します。
営業利益に関しては、工業用マシンの生産体制の見直しにともなう一時費用があり、下方修正します。

マシナリー事業 地域別売上収益

brother
at your side

単位：億円

	19Q2	20Q2	増減率	為替影響 除く増減率	FY19	FY20 前回予想	FY20	対前年 増減率	為替影響 除く増減率
売上収益	188	189	0.8%	1.1%	748	715	722	-3.5%	-2.6%
工業用マシン	71	64	-10.4%	-10.0%	276	249	236	-14.8%	-13.5%
米州	21	29	40.2%	42.9%	70	77	79	12.0%	14.7%
欧州	15	14	-3.0%	-5.8%	68	57	57	-15.2%	-15.2%
アジア他	33	18	-46.1%	-45.8%	129	106	90	-30.5%	-29.3%
日本	3	3	-0.4%	-0.4%	9	9	10	4.8%	4.8%
産業機器	73	89	22.3%	22.5%	298	310	330	10.8%	11.5%
米州	3	1	-58.2%	-	20	12	16	-23.3%	-
欧州	6	3	-47.9%	-	21	14	18	-16.9%	-
アジア他	38	73	93.8%	-	168	223	243	45.1%	-
日本	27	12	-54.3%	-	89	61	54	-39.4%	-
工業用部品	43	36	-17.2%	-16.9%	173	156	156	-10.1%	-9.6%
米州	6	5	-15.4%	-13.9%	23	18	19	-19.5%	-17.5%
欧州	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アジア他	4	4	-3.7%	-2.8%	18	19	18	-1.4%	0.8%
日本	33	27	-19.2%	-19.2%	132	120	119	-9.6%	-9.6%

従来のショールーム機能に加え、加工や自動化などの技術提案機能を備えた
新ショールーム「Brother Technology Center」がオープン



エントランス



機械展示エリア



セミナールーム

主に工作機械を製造している刈谷工場（愛知県刈谷市）敷地内に、新たに工作機械のショールーム「ブラザーテクノロジーセンター」がオープンしました。

これにより、ブラザーの工作機械の全ラインアップを展示することが可能となり、加工や自動化などの技術提案なども行えるようになりました。ブラザーの工作機械のソリューションのご説明や、トレーニング等にも利用ができる大規模なセミナールームも併設しております。

新ショールーム「ブラザーテクノロジーセンター」は、お客様との交流の場として重要な施設と考えています。今後もより多くのお客様にブラザーの工作機械の良さを知っていただき、産業機器事業のビジネス拡大を目指してまいります。

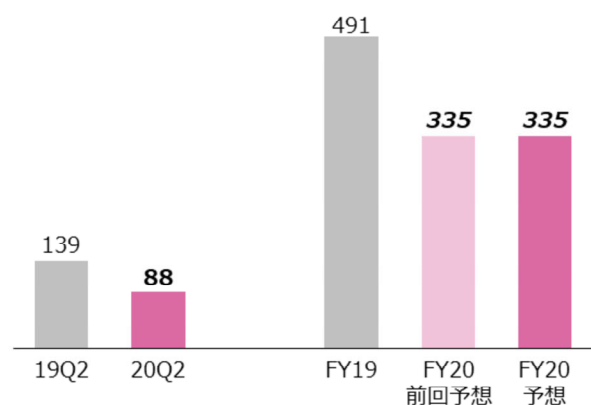
ネットワーク&コンテンツ事業 売上収益・事業セグメント利益・営業利益

brother
at your side

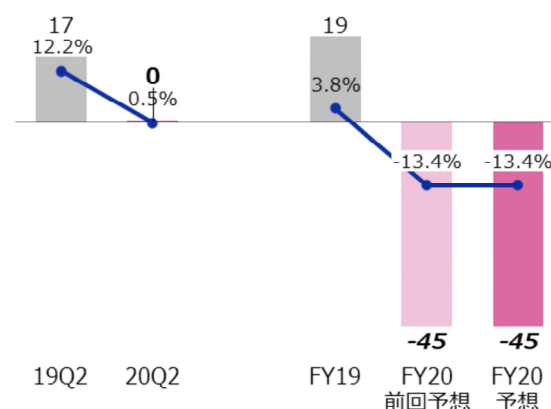
単位：億円

	19Q2	20Q2	増減率	FY19	FY20 前回予想	FY20	対前年 増減率
売上収益	139	88	-36.3%	491	335	335	-31.8%
事業セグメント利益	17	-4	-	21	-47	-48	-
営業利益	17	0	-	19	-45	-45	-

<売上収益>



<営業利益> ● 利益率



© 2020 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

28

ネットワーク・アンド・コンテンツ事業は、カラオケをとりまく環境の大きな変化により、厳しい経営環境が続いています。

第2四半期の売上収益は、**88**億円、対前年でマイナス36.3%の大幅な減収となりました。

利益については、
販管費の削減を積極的に進めたものの、新型コロナウイルス感染症の第2波拡大による店舗の時間短縮営業、
及びカラオケ機器販売の落ち込みによる売上の減収による影響を補いきれず、事業セグメント損失 **マイナス4**億円となりました。
営業利益については、雇用調整助成金（新型コロナ特例）もあり、赤字を回避しました。

次ページにて詳細をご説明します。

ネットワーク&コンテンツ事業 実績・通期見通し

brother
at your side

単位：億円

第1四半期実績（4-6月）

第2四半期実績（7-9月）

業務用カラオケ

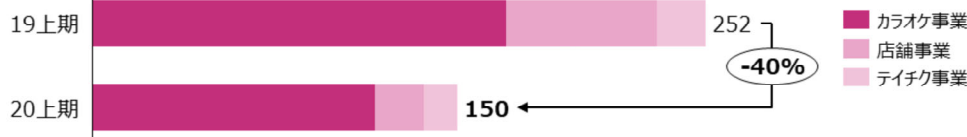
営業自粛に伴う減免措置による売上減、カラオケ需要低迷による機器販売減などにより、前年同期比 約4割の減収

カラオケ需要低迷による機器販売減などにより、前年同期比 約3割弱の減収

直営店舗

緊急事態宣言による休業要請に応じ、4月、5月の直営店舗をほぼ完全休業したことにより前年同期比 約8割の大幅減収。5月末より、段階的に店舗営業を再開。

感染予防を徹底した店舗運営も、自治体の要請等での利用の制限、営業時間の短縮などもあり、前年同期比 5割強の減収



通期見通し

業務用カラオケ

前年比3割減収見込み

稼働台数、固定売上（情報提供料・レンタル料）ともに営業自粛にともなう減免措置は6月末で解除期末までに、対前期比 9割程度までの回復を想定
収益悪化に伴い、大規模なコストダウンを実行する

直営店舗

前年比約4割減収見込み

市場は緩やかに回復し、段階的に、対前期比 8割程度までの回復を想定
店舗営業継続の基準を設け、不採算店舗については基準に照らして閉店を実施

© 2020 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

29

N&C事業の実績、通期見通しについて、カラオケ事業と、店舗事業とに分けてご説明します。

・Q1実績

業務用カラオケ事業は、前年比約4割の減収となりました。営業自粛により休業されているお客様への情報提供料の減免措置の適用、カラオケ需要低迷による機器販売、レンタル、情報提供料の収入も低迷し大幅減収となりました。

店舗事業は、前年比約8割の減収となりました。緊急事態宣言による休業要請に応じ、4月、5月の直営店舗をほぼ完全休業したことにより大幅減収となりました。5月末より、感染症防止対策を講じた上で、段階的に店舗営業を再開しました。

・Q2実績

業務用カラオケ事業は、前年比約3割弱の減収となりました。
Q2での減収幅は改善しているものの、カラオケ需要の低迷により、大幅減収となりました。

店舗事業は、前年比約5割強の減収となりました。感染予防を徹底した店舗運営に取り組んでおりますが、新型コロナウイルス感染症の再拡大を受け、自治体の要請等での利用の制限、営業時間の短縮などもあり、大幅減収となりました。

通期見通し

前回予想からは、通期の見通しは、ほぼ変更しておりません。

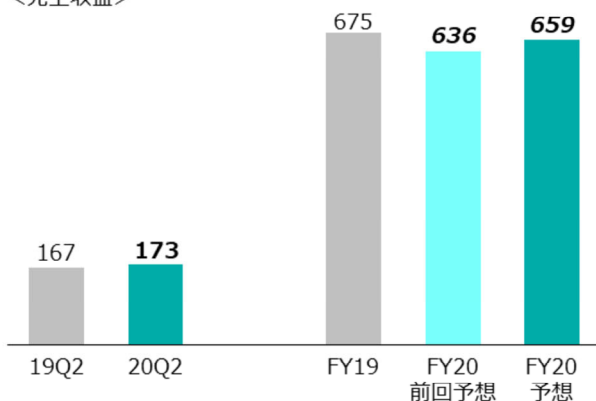
業務用カラオケ事業は、前年比で約3割の減収見込みです。期末までに、対前年比で9割程度までの回復を想定しています。収益悪化に伴い、大規模なコストダウンを上期に引き続き、実行していきます。

店舗事業は、前年比で約4割の減収見込みです。市場は緩やかに回復し、段階的に期末までに、対前年比 8割程度までの回復を想定しています。なお、店舗営業継続の基準を設け、不採算店舗については基準に照らして閉店を実施してまいります。

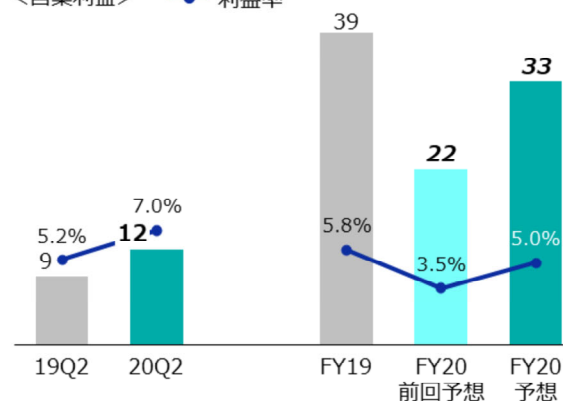
単位：億円

	19Q2	20Q2	増減率	為替影響 除く増減率	FY19	FY20 前回予想	FY20	対前年 増減率	為替影響 除く増減率
売上収益	167	173	3.7%	3.2%	675	636	659	-2.4%	1.1%
米州	42	45	5.3%	8.2%	165	159	166	1.1%	6.5%
欧州	77	77	0.5%	-2.2%	329	299	305	-7.4%	-5.8%
アジア他	47	51	7.3%	8.1%	182	179	188	3.1%	6.1%
事業セグメント利益	8	16	95.2%	-	38	24	37	-2.3%	-
営業利益	9	12	39.5%	-	39	22	33	-15.8%	-

<売上収益>



<営業利益> ● 利益率



© 2020 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

30

ドミノ事業の第2四半期の売上収益は**173**億円、ポンドベースの伸び率では、前年比 プラス3.2%の増収となりました。

地域別では、コロナ影響を受けて、第1四半期での需要が低調であった欧州もゆるやかな回復基調にあります。アメリカ、中国が好調であり、インドについてはQ1の反動増もあり回復基調です。

製品本体は、デジタル印刷機（DP）は需要は弱いもののコーディング・マーキング機器（C&M）は堅調であり、消耗品は、デジタル印刷機（DP）、コーディングマーキング機器（C&M）ともに堅調に推移しています。

利益については、増収の効果に加え販管費の減少により、事業セグメント利益は**16**億円と増益となりました。為替差損の影響があるものの、営業利益は**12**億円と増益となりました。

通期については、上期の想定を上回る堅調さを加味し、売上・利益とも見通しを引き上げます。

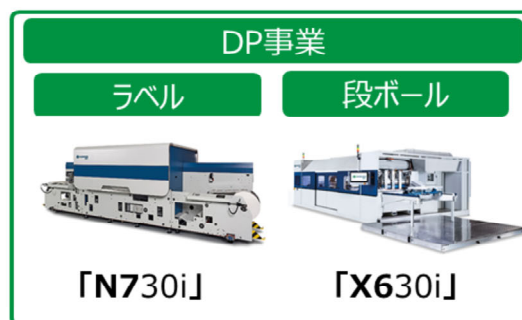
ブラザー製プリントヘッドを搭載したデジタルラベル印刷機を発売
ブラザーとドミノの協業により、産業用印刷領域の更なる発展を目指す

デジタルラベル印刷機「N730i」



- ✓ ブラザー製の1200dpiインクジェットプリントヘッドを搭載
- ✓ オプション品利用で前後処理の効率化が可能

DP（デジタル印刷）事業の発展



2020年9月末にブラザー製のインクジェットプリントヘッドを搭載したデジタルラベル印刷機「N730i」を発売しました。

ブラザーとドミノの協業は、ドミノ社買収当時（2015年）から目指していたシナジーであり、両社の知見を生かしながら新製品の開発を行ってきました。今後もグループ一体となり、DP（デジタル印刷機）事業、更には、産業用印刷領域の発展を目指します。

◆ご参考：

製品紹介サイト（案内動画付き）

<https://www.domino-printing.com/en/products/digital-colour-label-press/n730i>

brother
at your side